平成２０年度認定（№５３）

# 農業名人

## バラ栽培名人　森谷（もりたに）　匡彦（まさひこ）

昭和２１年生まれ　上伊那郡飯島町在住

### 新技術の積極的導入で高品質なバラの生産

生家がナシを中心とした果樹と酪農の農家であったため、農業高校で果樹栽培技術を学び就農する予定であったが、農家収入を考えたとき、土地生産性の高い「花き」の方が有利であることに気づき、花き栽培技術の習得を目的に小諸の長野県農業専門学園（現長野県農業大学校）へ進学し、19 歳で就農した。

就農と同時に花き（テッポウユリ、カーネーション等）の栽培を始めるべく、卒業前から親の協力を得て、テッポウユリの育苗を始めていた。また、カーネーションは、学校の研修でお世話になった農家から譲り受け、卒業後すぐに花き栽培に着手した。

就農当初は、露地での花き栽培であったため、連作障害や自然災害の影響を多く受け、経営が安定しなかった。より安定した農業経営を目指して、昭和 46 年に制度資金により、施設でのバラ栽培を開始し、その後、制度資金や自己資金で順次規模拡大を図ってきた。

昭和 63 年には、民間の「バイテク活用事業」を利用して県内初のロックウール栽培の試験を開始した。当時、ロックウール栽培は全国的にも少なく、市場からは否定的な意見もあったが、溶液の配合など試行錯誤を繰り返し、先進地のオランダへも視察に行くなど苦労の末にほぼ技術確立を成し遂げ、平成４年に新たな栽培施設の建設にあわせて本格的にロックウールの栽培を開始した。

現在は、施設７棟、35 アールで家族 3 人を主体とした労働力で、バラ栽培を行っているが、規模拡大の途上では、労働力が追いつかず品質低下を招いた時期もあり、いったんは規模を縮小し、良品質生産の技術を磨く中で、再度、徐々に栽培面積を増やすような時期もあった。３回の海外や国内研修で技術を高め、現在では、高品質のバラが生産されており、県内外の品評会などで毎年のように上位入賞している。

後継者の育成にも力を入れており、県の「里親」の認定も受け、学生等の農業研修生の受入も積極的に行い、現在までに 100 人ほどがここで研修を行った。ロックウール栽培技術の確立も「若者でもバラ栽培ができるように」との気持ちからでもあった。

地域の営農活動等にも積極的に関わっており、農業委員を３期(９年)、飯島町営農センター委員を 11 年、田切地区営農組合の組合長を４年、副会長等役員を７年務められている。また、日本バラ切り花協会の理事も４年務め、県内外のバラ振興に力を注いでいる。